

パタヤ市のコミュニティ施策と地域共同管理

○福島大学 牧 田 実
宇都宮大学 マリー ケオマノータム

1 目的

タイの都市では、近年、自治体の範囲を一律に小さな地理的区画に分け、それをチュムチョン（地域）と称し、そこに住民の代表機関であるカナカマカーン・チュムチョン（地域委員会）を設置する動きが進んでいる。この報告は、タイ東部に位置するパタヤ特別市を事例に、チュムチョンおよびカナカマカーン・チュムチョンの組織化と地域共同管理の実態を現地調査によって明らかにすることにより、タイの都市におけるコミュニティ施策の成果と課題を、制度と主体の両面から考察することを目的とする。

2 方法

タイ国政府内務省およびパタヤ特別市を対象として、行政資料の収集・分析と聴き取り調査を行うとともに、パタヤ特別市内のチュムチョンを取りあげ、カナカマカーン・チュムチョンの委員を対象とする聴き取り調査を行う。

3 結果

パタヤ特別市は、バンコク都から東南へ 160 km、タイ湾に面する人口 11.8 万人の観光都市である。もとは小さな漁村にすぎなかったが、ベトナム戦争の際に米軍の保養地として観光開発が進み、現在もビーチやマリンスポーツで賑わうリゾート都市である。

パタヤは、1953 年に地方自治体（テーサバーン）に昇格し、1976 年に地方行政制度上はバンコク都とならぶ「特別市」となった。チュムチョンの組織化を促す内務省通達「都市自治体・衛生区の開発のためのチュムチョンの設置」は 1987 年に出されているが、パタヤ特別市のコミュニティ施策は 2001 年に始まった。同年パタヤ特別市はチュムチョンの設立と運営に関する規則を制定し、まず 15 のチュムチョンを設立、以後、順次、可能なところから組織化を進め、現在は計 42 のチュムチョンが存在している。2017 年現在、チュムチョン人口は 63,299 人を数え、パタヤ特別市全体の人口（118,213 人）の 53.5%を占めている。

チュムチョンは、その範囲に居住するすべての住民を包含する地理的単位であり、そこには住民の代表機関として、カナカマカーン・チュムチョンが組織されている。この意味で、チュムチョンは官製の行政区的な性格とともに、地域共同管理を担う住民自治組織としての性格をあわせもっている。パタヤ特別市のカナカマカーン・チュムチョンは、15 名以内の委員によって構成される。会長は住民による選挙によって選出され（軍事政権下にある現在は一時的に選挙が禁じられている）、その他のメンバーは会長が指名する。役職としては、会長、副会長、書記があり、そのほか総務、安全・治安、財務、社会保障、保健、教育、開発などの係がおかれることになっている。

4 結論

タイの都市に、近年一律に導入されるようになったチュムチョンは、官製の行政区的な性格と住民自治組織としての性格をあわせもっている。1990 年代以降のタイの民主化・分権化の流れに位置づくコミュニティ施策であると同時に、地域共同管理における住民の自助と参加を促す仕組みでもあるといえよう。